

# 審議会等議事概要

平成26年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 議事概要

日 時	平成26年8月4日（月曜日）午後6時00分～午後7時53分
開催場所	滝川市役所5階 庁議室
出席者	<p>出席：佐藤委員、水口委員、春田委員、太田委員、富田委員、佐々井委員、 今野委員、田代委員、居林委員、渋谷委員、堀田委員</p> <p>欠席：沖本委員、柴田委員、尾崎委員、船奥委員</p> <p>オブザーバー：後藤校長、内海校長、 松田校長</p> <p>北海道教育庁：谷垣主幹、 藤井主幹、 堀籠企画総務課長</p> <p>事務局等：前田市長、小田教育長、館教育部長、小野指導参事、高田学校教育課長 中川課長補佐、鳩山新しい学校づくり推進室長、酒井係長</p>
議 事	<p><b>1 開 会</b></p> <p><b>2 挨拶 滝川市長 前 田 康 吉</b></p> <p>・市長から、出席いただいた委員、北海道教育庁、オブザーバーの皆様へのお礼と、少子化により空知北学区の中学校卒業生数の減少傾向が止まらず、平成30年度から33年度までの見通しでは大幅に減少することから、再編や市立高校を含めた定員調整の検討が必要とされているため、空知北学区における滝川市内の高校のあり方について、よろしく願いしたい旨の挨拶があった。</p> <p><b>3 委員長・副委員長の選出について</b></p> <p>・事務局より委員長に、田代委員、副委員長に居林委員を提案し、各委員の了承を得た。</p> <p><b>4 委員長挨拶</b></p> <p>・少子化にどう対応するのかが大きな課題になっている。 学校をどう改革するか、質をどう確保するかということが、非常に大事な問題。各高等学校、北海道教育庁、滝川市教育委員会から説明を受け、審議を深め、忌憚のないご質問ご意見を伺いたいのので、よろしく願いしたい旨の挨拶があった。</p> <p>・委員長挨拶終了後、市長が他の公務のため、退席した。</p>

## 5 市内各高等学校の特色ある教育活動について

- ・オブザーバーである市内3高等学校校長より「学校説明資料」、「学校要覧」、「入学案内」を用いて卒業後の進路状況、各学校で取り組んでいる活動等の説明をいただいた。

※質問等特になし

### ・委員長

3校の校長先生から特色ある教育活動をいくつか紹介いただいたが、保護者の側から何かあるか

### ・委員

部活動がとても充実していて、ほとんどの生徒が部活動に所属し、熱心に取り組んでいる。

学校祭の方も年々パワーアップして、地域の方が楽しみにしている。

### ・委員

校舎内に入ると元気なお子さんが多く、すれ違う時には大きな声で挨拶をしてくれて、元気なイメージがある。

部活動も、全国大会まで出場する部活が増えて来ている。PTAの体育振興予算も年々膨らんでおり、今の予算額で対応しきれない、ということになるのではないかとというくらい期待に応えている状況にある。

### ・委員

自分の子どもの体験談を含めて話させてもらおうと、校長の説明の通りと実感している。

※質疑等特になし

## 6 協議事項

### (1) 公立高等学校配置計画案(平成27年度～29年度)について

- ・北海道教育庁新しい高校づくり推進室 谷垣主幹より「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 資料1～4・概要版」を用いて説明を行った。

※質疑等特になし

### (2) 中学校卒業生数と高校定員の状況について

- ・事務局) 鳩山室長より「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 資料1～6」を用いて説明を行った。

※質疑等特になし

・委員長

北海道教育庁・滝川市からの説明を聞いて、平成30年には生徒数が減少する。特に平成33年においては、空知北学区で27%減という状況にある。説明の中に、高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律第4条の説明があったが、空知北学区全体で考えなければならないということもあり、滝川市としても今後と現状を合わせて、特に充足率等も含め、考えなければならない状況である。滝川市においても定員調整の必要性を共有出来たのではないかと思う。今日の説明で皆さんの理解をいただいて進めて行きたい。道の説明、市の説明に基づき、課題を充分把握し、将来性を持ってこれから定員調整等の審議を進めていきたい。

・委員

最後のスケジュールの資料だが、この中で検討市民会議がどこまでをまとめるのか。第2回では市内公立高等学校定員調整について、第3回では対象校について・まとめについてとあるが、明確に「この学校です」、「この学校の1間口を減らします」、「この学科の1間口を減らします」とこの検討会議で答えを出すのかを、教えていただきたい。

・事務局

この会議のまとめとしては、平成30年度には北学区全体で100名を超える中卒者数の減少、市内においても1間口近い減少がある。平成30年度以降について、北学区、滝川市内においても間口の削減が避けられない状況にあると教育委員会では、認識している。その減少に対してどう対応して行くのか、結果的には市内各学校での間口の削減、またどこの学校をするのかというところまで結論を出していただければと考えている。

・委員

そうだとすると各対象高校の校長やPTAの方がいるというのは、それはあまりにも厳しい選択ではないかなと思う。このまとめとして、どこかの高校で間口を減らしましょうと答えを導いた時に、その当該の学校の対象者がどう思うか。私は逆に市民会議の委員の中にいない方がいいなと感じてしまう。その点は、どう思うか。

・事務局

今回の会議にあたり、人選には気を遣ったところである。他市町村でも、間口減や再編整備を行っており、組織を立ち上げているのが実情である。高

校の校長についてはどうするのか、会議の中に入れるのか入れないのかということだが、全く知らないところで話を進めることにもならず、また当事者であれば会議に対して発言をしづらい、あるいは、理論的には北海道教育委員会の職員ということもあるので、会議のメンバーから外させていただき、今回はオブザーバーという形で出席いただいた。色々な高校の実情、あるいはご意見をいただければと思っている。

・委員

自分の立場で言わしていただくと、例えば自分の学校が間口減になり、自分がこの立場で「了解した。」とは言えない。また、現在、定員を満たしている学校を減らすとなれば、中学生がそれを理解出来るかどうか。それを考えた時に、「分かりました」「理解します」とは間違っても言えないのが、正直な感想である。滝川市という枠だけで考えることは、いかがなものかと思う。

・事務局

現在の状態が続くことはない。そういったことも踏まえて、議論していただきたいと考えている。今日の資料の中では、なかなかわからない部分もあるかと思うが、それぞれの考えを会議の中で意見として出していただきたい。

・委員

どこかの学校が、間口減になることを、委員の立場で認めるということは、苦しい立場であるということだけは、理解していただきたい。

7 その他

- ・事務局) 鳩山室長より平成26年度「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議」開催スケジュールについての説明を行った。

8 教育長挨拶

- ・教育長から会議出席についてのお礼

滝川市が置かれている状況と課題について市立高校を含めた滝川市内の間口をどうするのか、市として市民としての判断をどこかで行わなければならないので、皆様から率直な意見をいただきたい旨の挨拶があった。

9 閉会

<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議次第」</li> <li>○「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議委員名簿」</li> <li>○「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議設置要綱」</li> <li>○「学校説明資料及びパンフレット（滝川高等学校・滝川工業高等学校・滝川西高等学校）」</li> <li>○「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 資料目次及び資料1～4・概要版」北海道教育庁</li> <li>○「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 資料目次及び資料1～6」滝川市教育委員会</li> <li>○「平成26年度滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議開催スケジュール」</li> </ul>
-------------	--